



手作業での選別作業は負担が大きかった上、木くずに付いている釘などで怪我をする危険もありました。



搬入されてきた木くずをそのまま投入できるのが木くず粗破砕機の何よりの強みです。



処理効率81%向上

労力は削減、処理能力は急上昇

二人の作業員で行っていた木くずの選別を一人で行えるようになった上、1時間あたり451kgだった処理量が817.4kgとなりました。

ものづくりへの想い

当社の主要事業は解体工事なのですが、「解体プラス」と銘打って廃材を活かす解体を行っています。木材やコンクリートなど、廃材のリサイクル率は86%。未来の地球のために大切な環境を守るやりがいのある仕事です。

今後の展望

チップにはバイオマス発電などの燃料として使われる燃料チップと畜産農家の敷料となるエコチップがあり、どちらも需要が高まっています。その需要に応えるためにも地球環境のためにもこの事業を伸ばしていきます。



case
08 産業廃棄物処理業
原田建設 株式会社

設立：1964年
代表取締役：上原 雄蔵
資本金：2,000万円 従業員：36名
事業内容：解体・土木工事、
産業廃棄物処理など

〒880-0035
宮崎県宮崎市下北方町井尻5362番地5
TEL.0985-24-7463
FAX.0985-24-7464
<https://hrdm.co.jp/>



【 原田建設 株式会社 】

木くずリサイクルで 環境に貢献

長年、解体工事で発生する木くずのリサイクルに力を入れてきた同社。
再資源化率をさらに高めるために粗破砕機を導入しチップ生産力を増強しました。



代表取締役

上原 雄蔵
うえはら ゆうぞう



チップ事業の進展を加速させる新装置

産

業廃棄物のリサイクル工場を複数保有し、環境に配慮した解体工事を主軸とする同社。

16年ほど前から家屋解体などで発生する木くずを処理してチップを生産してきたのですが、人力による手選別が必要な工程があり作業効率率的にも安全性においても改善の必要性を感じていました。「破砕機に投入する前段階で木くずに付いているボルトやナット、金具類を取り除かなければならないのですが、その際、長時間にわたる中腰での作業を強いられるため、作業員の足腰にかかる負担が大きかったんです。人手ですくから生産性も頭打ちの状態でした」

そのような状況の中、県内では空き家等の解体工事から発生する木くず増加傾向にあり、受け入れを断らなければならない場合もあったといいます。

こ

の課題を解決すべく、同社が導入したのが、破砕機の前段階で木くずを処理する粗破砕機です。

「木くず粗破砕機は異物が付いたままの木くずを処理できる上、粗破砕後に出る金属くずを自動で除去できるんです。おかげで人手による選別作業が不要になりましたし、処理効率が格段に高まりました。近年では災害によって発生する木くずも増えており、木くずの処理需要は増加傾向にあります。日本は資源に乏しい国ですから、大切な木資源をしっかりとリサイクルできるよう、より多くの木くずを受け入れていきたいと考えています」